

令和7年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【中島小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ■さいたま市学習状況調査の結果から、「読書」への関心の高さが国語の「読むこと」につながることが明確になっている。「読書」習慣に関しては同調査から、学年間に差があることも分かっており、引き続き啓発する必要がある。 ■視覚的な効果と、実感を伴った理解のバランスについて、学年によってICT寄り、具体物操作寄りとバランスを欠く状況が散見される。引き続き両者のベストミックスを研究し、全ての児童に分かりやすい授業を展開できるように指導の充実を図る。 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ■さいたま市学習状況調査の結果などから、児童の学習に対する興味・関心が、各教科や学習内容の理解に結び付くことが分かってきている。次年度は学習に対する興味・関心を高める手立てとともに、個々の児童に合った学習機会の提供について、手立てを講じていく。 ■ICTの活用は、学習における発表など他者との交流の場面で大きな役割を果たしていることが分かってきている。引き続き、他者と協働して学習を進める際のICT活用を推進するとともに、学習へ振り返りなどを通じ、児童自身が自らの「学び方や教材、学習時間」を選択できるツールとしての活用の充実を図る。 	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> 国語の「言語」に関する事項、算数の「図形」に関する事項に、前年度に引き続き課題がみられる。 <指導上の課題> 生活の中でさまざまな言葉に触れ、使う機会が少ない。また、図形を視覚的に捉える活動が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ 国語の「言語」に関わる基礎的な学習(音読・漢字練習・作文)について、学校(授業)と家庭が連携しながら推進する。【通年】 ⇒ 視覚的な効果を生かして、全ての児童に分かりやすい授業を展開できるように、指導の充実を図る。【国・算を中心にすべての授業で実施する】
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> 言葉の特徴を正しく捉え、使い方を理解する事項、平面で表現された図形を立体的に捉える事項に課題がみられる。 <指導上の課題> 学習後の自己評価に客観性を欠くことがあり、自身の身に付いた力を正しく振り返る経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ 教科や学習内容の特性に基づき、具体物操作やICTの活用により、課題を多角的に捉える経験や機会を多く設定する。【学校課題研修と連携して進める】 ⇒ 学習の振り返りなどを通じ、児童自身が自らの学習進度を把握し、学習を自己調整する経験を充実させる。【通年】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	<ul style="list-style-type: none"> ■国語の「言語」に関わる基礎的な学習(音読・漢字練習・作文)について、学校(授業)と家庭が連携しながら推進しており、成果も出ている。引き続き、国語とりわけ「読むこと」に繋がる「読書」習慣の向上を図る。 ■視覚的な効果と、実感を伴った理解について、ICT活用と具体物操作との両者をバランスよく組み合わせ、全ての児童に分かりやすい授業を展開できるように、引き続き指導の充実を図る。
思考・判断・表現	A	<ul style="list-style-type: none"> ■学校課題研修の中心に据え、各教科や学習内容の特性に基づき、具体物操作やICT機器の活用、他者の意見や考えを参照するなど、引き続き課題を多角的に捉える経験や機会を多く設定する。 ■学習の振り返りなどを通じ、児童自身が自らの学習進度を把握し、学習を自己調整するとともに、学びや成長を実感し、学習意欲向上へつなげるようにする。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>学習にICTを積極的に活用した授業が展開されており、ICTに関する児童の関心が高く、それに伴って「ICT機器を活用した学習」に関する事項の結果が高くなっている。国語の正答率は総じて高く、特に情報の扱い方に関する事項が高くなっている。要因として「読書が好き」児童の割合で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと考えている児童の割合が高いことが関わっていると考えられる。算数ではデータの活用や計算の処理が高い正答率の一方で、数直線の利用や秤の測定といった、数量を具体物や図と結び付けることに課題がみられる。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語では、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域の正答率が高くなっている。算数では「データの活用(表やグラフの読み取りや数量関係をとらえる)」の領域で高い正答率となった。要因として前述した「読書が好き」と回答した児童の割合が高いことに加え、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と考えている児童、「分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と考えている児童の割合が高いことから、授業を通じて自分のめあてに対し、自己・他者の意見や考えを比較検討したり、表やグラフなどの資料を活用したりしながら学習を進めたことが、各教科の思考力・判断力・表現力の向上につながったと考えられる。</p>	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>各教科の正答率は、学年ごとの差異があるものの、総じて概ね市の平均付近にある。国語では、学年ごとの差異があるものの、「書くこと」の正答率が高くなっている。「読むこと」については、読書への関心との関連が現われる結果となった。算数では、各学年における「図形」変化と関係といった領域ごとに得意・不得意が現われる結果となった。また「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣や「授業で学んだことを他の学習で生かす」学習姿勢が身に付いていることと正答率の高さにも関連がみられた。</p>	
思考・判断・表現	<p>「算数の勉強は好きですか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童(学年)ほど正答率が高いという傾向が現われている。このことから、児童にとって、学習に対する興味・関心の向上が正答率を押し上げることを改めて確認できた。また、ICTの積極的な活用と、「自分の考えを発表する」場面での肯定的な回答との関連がみられる。一方、ICTの活用が「学習した内容について、次の学習につなげることができている」「自分に合った学び方、教材、学習時間が自分に合っている」という肯定的な回答に必ずしもつながっておらず、児童個々に合わせた学び方の実践に結び付けていくことが課題と考える。</p>	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	<ul style="list-style-type: none"> ■国語の「言語」に関わる基礎的な学習(音読・漢字練習・作文)について、学校(授業)と家庭が連携しながら推進している。特に「読書」の習慣が学力向上に関わることをリーフレットなども活用しながら啓発する。 ■視覚的な効果と、実感を伴った理解のバランスに留意し、全ての児童に分かりやすい授業を展開できるように、引き続き指導の充実を図る。 	「変更なし」
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> ■教科や学習内容の特性に基づき、具体物操作やICT機器の活用、他者の意見や考えを参照するなど、引き続き課題を多角的に捉える経験や機会を多く設定する。 ■学習の振り返りなどを通じ、児童自身が自らの学習進度を把握し、学習を自己調整するとともに、学びや成長を実感し、学習意欲向上へつなげるようにする。 	「変更なし」

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)